

内 容 項 目		2019事業年度							参 考						
		法人自己評価	評価委員会評価					委員平均	評価結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成す	1 市民病院としての役割の明確化	—	—	—	—	—	—	—			A	B	B	B	B
	(1) 医療機能の明確化	3	4	3	3	4	4	4	4	<p>(A委員)独法化初期から急性期だけではなく回復期や在宅支援も含めて市民病院の役割と考えており、2病棟を回復期に移行した。公立病院の再編統合の対象にリストアップされたが、急性期維持のためだけにケアミックスにした訳ではなく地域ニーズからの機能明確化であり、むしろ評価できる。</p> <p>(B委員)当事業年度の年度計画に基づき、計画通りに推移している。初年度9月に出された厚労省からの突然の再編統合の公表後、翌月病院広報誌(ブリッジ)に理事長が市民病院の現状を報告され一般市民、医療機関、行政の信頼を得た。これからも在宅から入院、そして在宅へのスムーズな流れを期待する。</p> <p>(C委員)一般病棟(急性期)、地域包括ケア病棟、回復リハビリテーション病棟が適正に運営され、特に急性期では入院患者が目標値には届いていないが259.2人/日へと増加している。</p> <p>(D委員)急性期医療を中心としながらも、回復期機能も病院機能と位置づけ、機能が明確になっている。病棟稼働率から、急性期機能病棟稼働率は目標値に達していないが、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟の稼働率は目標値を超えた実績を示していることから年度計画を上回っていると評価した。</p> <p>(E委員)地域の医療を担う公立病院としての役割は十分に果たしていると思い、法人自己評価は3には違和感がある。</p>	4	4	4	4	4
	(2) 地域包括ケアシステムにおける機能の強化	3	4	3	4	4	3	4	4	<p>(A委員)回リハ病棟、地ケア病棟、訪問看護などが機能し始め、地域包括ケアシステムのなかの市民病院という役割が進みつつある。民間病院との役割分担も考えながら、地ケア病棟への地域からの入院をはじめさらなる役割強化を期待したい。</p> <p>(B委員)地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟、訪問看護ステーションの運用が順調に進み、年度計画通り進んでいる。</p> <p>(C委員)地域包括ケア病棟の稼働率は80.6%となっており、回復期リハビリテーション病棟の稼働率83.7%と共に、急性期からの患者対応として機能が適正に行われている。</p> <p>(D委員)地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟の稼働率は目標値を超えた実績を示していることから年度計画を上回っていると評価した。</p> <p>(E委員)地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を果たすための体制作りにはさらなる人材の確保が必要となるが現在までの取組は評価できる。</p>	3	3	3	3	3

第2期:地域包括ケアシステムのなかでの役割の明確化

内 容 項 目		2019事業年度							参 考									
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間				
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時			
る た め と る べ き 措 置	(3) 災害及び重大な感染症発生時への対応	4	4	4	4	4	4	4	4	(A委員) 当該年度の終盤から新型コロナウイルスが世界的に拡大したが、まさに「新興感染症の発生」に対してしっかりと対応が取れたと判断できる。20年度以降、新型コロナ対応が一段落すれば、引き続きその他の災害対応にも力を入れていただきたい。 (B委員) 火災訓練、広域災害医療情報入力訓練、地震訓練、災害時給食体制の強化、独立した明石保健所との合同訓練や新型コロナに対して感染諸対策本部を立ち上げ、帰国者、接触者外来を運用しており評価4とした。 (C委員) 帰国者・接触者外来ではRT-PCR検査が適正に行われており、陽性患者に対しては地域の必要な新型コロナウイルス感染症の入院病院として対応しており、これまでに23人の患者が入院している。 (D委員) 新型コロナウイルス感染症に対する対応は、年度計画を大幅に上回っていると評価してもよいと考えましたが、年度計画に記載されている事業継続計画（BCP）を策定するとの記述がされているが、BCPに関する実施状況の記載がないため年度計画を上回っていると評価した。 (E委員) 地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を果たすための体制作りにはさらなる人材の確保が必要となるが現在までの取組は評価できる。	4	3	3	3	3	3	第2期:災害緊急時への対応	

内 容 項 目		2019事業年度							参 考										
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間					
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時				
第1 市民 対し て 提 供 す る サ ー ビ ス そ の 他	2 高度な総合的医療の推進	—	—	—	—	—	—	—			B	A	A	A	A				
	(1) 急性期医療を中心とした総合的な医療の提供	4	4	4	4	4	4	4	4	<p>(A委員) 地域密着型医療を重視する一方で全麻手術や高難易度手術が増加していることは評価できる。内科系各科も専門性の強化が進んでいるが、病院の機能からみて総合内科のさらなる充実も期待したい。</p> <p>(B委員) 急性期機能病棟が目標値に届かないものの、麻酔科医の増員による全身麻酔手術の着実な増加と各診療科医師の確保ができてきており診療の充実が図られている。また早期の社会復帰のための回復期リハビリも入院料3を算定できるようになっている。</p> <p>(C委員) 医師数と診療科の増加が見られ、地域完結型としての総合的な医療が進められている。</p> <p>(D委員) 各診療科の特徴を生かして、治療にあっていること、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟への移行、在宅への移行など病院全体で効果的に実施できていることから、年度計画を上回っていると評価した。</p> <p>(E委員) 難易度の高い手術の件数が上昇しており、これにより入院収益も増加するため病院経営にプラスになる循環が生まれていることは評価出来る。</p>	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	第2期:急性期医療の総合的な提供																		
	(2) 救急医療の推進	3	3	3	3	3	3	3	3	<p>(A委員) 救急患者数は少し減少しているが、受け入れ体制の問題であれば改善する必要があるが、そうでなければ水物なので大きな問題ではない。むしろ市民病院として受け入れる必要がある救急を確実に受けることが重要である。</p> <p>(B委員) 病院の立地場所、近隣の救急医療体制の変化もあり救急搬入が目標より減少。市内の救急患者がやや減少が見られるが市外の患者が増えている。また入院化率、お断り率も前年度を維持している。</p> <p>(C委員) 救急車の受け入れは少なくなっているが、病床数に対して医師数は多くない状態での救急医療としては現状では評価できるものと考えている。なお、救急車のお断り率は19.8%と低く抑えられている。</p> <p>(D委員) 救急診療の実態が前年度並みに維持できていることから、年度計画通りと評価した。</p> <p>(E委員) お断り率が昨年度実績及び本年度目標も下回っている。責任ある医療の提供には率のみで判断することも出来ないが、低いとは言えないお断り率なので改善を期待したい。</p>	3	4	4	4	4	4			

内 容 項 目		2019事業年度								参 考					
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時
他の業務の質の向上に関する目標を達成す	(3) 市と連携した政策医療の充実	4	4	4	4	4	4	4	4	(A委員) 通常の政策医療に加えて、当該年度は終盤の2月・3月であるが新型コロナウイルスへの対応もしっかり連携できていると判断できる。2020年度もさらなる対応をお願いしたい。 (B委員) 明石保健所や子育て支援課など関係する行政からの要望に応え、連携し積極的に事業を展開している。 (C委員) 訪問看護ステーションを開設して地域との連携が取れている。ペットコントロールにより地域が求めている患者の受け入れに対応できており、地域密着型の切れ目のない対応ができています。 (D委員) 年度計画に記載している連携医療以外にも、市の政策に応じた施設や職員の活用を行っており、年度計画を上回っていると評価した。 (E委員) 「感染したかもダイヤル」に対する支援などを通じて地域の感染予防に貢献していると評価する。	3	3	4	3	3
											第2期: 予防医療及び市と連携した政策医療				

内 容 項 目		2019事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時
る た め と る べ き 措 置	3 利用者本位の医療サービスの提供	—	—	—	—	—	—	—			B	B	B	B	B
	(1) 医療における信頼と納得の実現	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 入退院支援センターの改善や多職種によるインフォームドコンセントなど努力の成果が見て取れる。医療提供には多くの側面があり、いつも患者・家族の信頼と納得を得ることは簡単な事ではないので引き続きの努力を期待したい。 (B委員) 入退院支援センターをリニューアルし患者サポートを充実、多職種の介入による患者の安心につなげている。 (D委員) 年度計画に記載している説明・同意書の院内標準化と関連するプロセスの見直しを図ることに関する実施状況の記載がないが、患者が十分に受ける医療を理解・納得できるような取り組みがなされており、年度計画通りと評価した。 (E委員) 全ての患者を満足させることは不可能だと思われるが大多数が求めることには改善は必要と思う。但し「お客様は神様です」的な対応は全く不要であり患者と向き合っていくことを一利用者の立場として求める。(昨年4日間入院しました。)	3	3	3	3	3
	(2) 利用者本位のサービスの向上	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 患者サービスに向けてこまめな対応が行われており継続を期待したい。(外来患者アンケートの結果を積極的にフィードバック、かつ入院患者にも配慮しているなら4でも良いと思う) (B委員) サービス向上委員会を毎月開催し、患者の満足度の向上や来院者の心の和みに配慮を行っている。 (D委員) 改善要望への対応、満足と調査結果などから、年度計画通りと評価した。 (E委員) 全ての患者を満足させることは不可能だと思われるが大多数が求めることには改善は必要と思う。但し「お客様は神様です」的な対応は全く不要であり患者と向き合っていくことを一利用者の立場として求める。(昨年4日間入院しました。)	3	3	3	3	3

内 容 項 目		2019事業年度							参 考							
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間		
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時	
第1 市民 に対し て提供 するサ ービス その他 の業	4 地域とともに推進する医療の提供	—	—	—	—	—	—	—			A	A	A	A	A	
	(1) 地域医療支援病院としての役割の強化	3	3	4	3	3	3	3	3	(A委員)決して低い水準ではないがほぼ計画通りと言える。地域医療支援病院という制度(名前)を超えた取り組みに期待したい。 (B委員)オープンカンファレンスの参加者が減少しているが連携登録医療機関は増えており他の支援病院としての機能は充分果たされている。 (D委員)地域の医療機関等との連携実態から、年度計画通りと評価した。 (E委員)紹介率は上昇しており(目標も上回る)評価出来る。	4	4	4	4	4	4
	(2) 地域社会や地域の諸団体との交流	4	4	4	4	4	3	4	4	(A委員)地域社会との交流および情報発信は引き続き積極的に行われており評価できる。 (B委員)各種の院内行事を企画実行し、患者家族との交流を果たした。また院外にも広報活動や講演会、奉仕活動を実施し市民病院の評価を高めている。 (D委員)地域住民に対する講座の実施だけでなく、内容の工夫、職種ごとの専門性を生かした講座の開催など、地域住民に対する教育的なかかわりや病院に関する情報発信としてのHPの活用や広報誌の発行など、年度計画を上回った活動が行われていると評価した。 (E委員)積極的な情報発信はそれだけで地域医療に貢献すると考えられ時間的な制約の中での様々な取組は評価出来る。	3	3	4	3	3	

第2期:地域医療支援病院としての役割の推進

内 容 項 目		2019事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時
業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置	5 総合力による医療の提供	—	—	—	—	—	—	—			B	B	B	B	B
	(1) チーム医療と院内連携の推進	3	3	3	4	3	3	3	3	(A委員)他の病院でも行われているような基本的なことはしっかり行われているが、病院の方向性、すなわち「高度な総合的医療」の提供に不可欠なチーム医療の構築に向けての飛躍を期待したい。 (B委員)多くの委員会、カンファレンスが実施されているが研修医や医師の参加状況を知りたいところ。 (D委員)多職種連携、事務職も含めた回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟のベッドコントロールの実態などの具体的な記載や、多職種が連携して達成できていることなどの記載があると評価しやすい。実施状況から年度計画通りと評価した。 (E委員)一般企業においても情報共有にはわざわざそのための時間を割いており引き続きチーム医療推進のための取組を求めたい。	4	4	3	4	4
	(2) 情報の一元化と共有	3	2	3	3	3	3	3	3	(A委員)DPC情報と病床管理情報だけしか記載がないがそれ以外はどうなっているのか。 上記も重要であるが、それ以外に全般的に現場運営や管理的な情報を一元化させて徹底させなければ組織が一体にならない。 (B委員)レセプト審査の結果なども伝達する必要のあるものは情報を共有してはどうか。 (D委員)月曜日から金曜日まで看護職と事務担当者が集まって行っている在宅または転院への調整や回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟への転棟を効率的に行っていると記載があるが、実態が示されているとなお良かった。記載内容から、年度計画通りと評価した。 (E委員)一般企業においても情報共有にはわざわざそのための時間を割いており引き続きチーム医療推進のための取組を求めたい。	3	3	3	3	3

内 容 項 目		2019事業年度							参 考							
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間		
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時	
第1 市民 対し て提 供す るサ ービ スそ の他 の業 務の 質の 向上 に關 する 目標 を達 成す る	6 医療の質の向上	—	—	—	—	—	—	—			B	B	B	B	B	
	(1) 医療安全や感染防止 対策の徹底	4	4	4	4	4	4	4	4	(A委員)院内で必要な医療安全対策に加えてあかし安全ネットワークの事務局として役割を果たしている。引き続き市民病院として役割強化を期待したい。 (B委員)医療安全管理を厳格に行い、インシデントカンファレンス243回を行い職種横断的改善が行われたことは評価に値する。明石医療安全にも主体的に取り組み各病院の安全体制の改善が図られた。 (C委員)医療安全推進室を設立して現状を分析しながら対応している。新型コロナウイルス感染症に対してもRT-PCR検査や陽性患者の受け入れを安全に行っている。 (D委員)医療安全管理室の体制の見直し、「あかし医療安全ネットワークの事務局として関連機関との連携けん引については、年度計画を上回っていると評価した。他の活動も着実に実施しており、評価できるが、例えばピックアップマシンの導入によりインシデントが低減が図られたとの記載があるが、どの程度の低減が図れたのか、手術部位の感染についても感染率の低下に向けて取り組んでいるとあるが、どの程度感染率は低下しているのか、評価できる数値の記述をしていただくと評価しやすい。 (E委員)COVID19による感染症対策を市民病院として積極的に取組まれたことにより市民に安心を与えることが出来たと評価する。	4	4	4	4	4	
	(2) 質の向上のための取 組の強化	3	3	3	4	3	3	3	3	(A委員)全病院的に日々多大な努力が払われていることに敬意を表するが、本項目の達成には限りがない。明らかに他病院より進んでいる状態を目標にしていきたい。 (B委員)年度計画に基づき計画通りISO9001の継続認証、パス大会を実施適応率を上昇させた。 (C委員)ISO9001認証を得て、病院の質向上に務めている。消化器内科医2名を得て内視鏡センターを立ち上げ、リウマチ・膠原病内科も新設して幅広く患者の治療に対応している。また、糖尿病内科、精神科、眼科の医師を採用できている。 (D委員)品質管理室を設置したことによる活動実態の具体的な記載があると年度計画に照らした評価が行えるが、記載がないこと、電子カルテのリリースにむけた課題の整理やデータマネジメントシステム構築の検討の記載がないことから年度計画どおりと評価した。 (E委員)品質管理室の設置は評価出来る。	3	3	4	3	3	第2期:継続的な取り組みによる質の向上

内 容 項 目		2019事業年度								参 考							
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間			
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時		
と た め と る べ き 措 置	(3) コンプライアンス（法令・行動規範の遵守）の強化	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)前年度の実地棚卸未実施の問題を受けて速やかに制度整備をしたことは評価できる。ただし、その他項目含めて徹底と継続が重要である。 (B委員)倫理委員会、内部統制システムの構築がなされコンプライアンスが守られることを期待する。年4回の棚卸しは必要ありや？ (C委員)人事評価制度を導入して適正に対応している。内部統制システムを構築して、具現化するために勉強会も開催している。 (D委員)実施状況の記述から年度計画どおりと評価した。 (E委員)前年度に発覚した実地棚卸の不実施については内部統制の重要な欠陥と考えられる。影響は少額であったとの認識であるが期間損益が正しく算定されるために経営管理体制を強化することが必要である。 (コンプラの問題ではなく記載場所が適当ではない？)	3	3	2	3	2	第2期:コンプライアンス(法令・行動規範の遵守)の徹底	

内 容 項 目		2019事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時
第2 業務 運営 の 改善 及び 効率 化に	1 医療職が集まり成長する 人材マネジメント	—	—	—	—	—	—	—			B	A	B	A	B
	(1) 必要な医療職の確保	3	3	3	3	4	3	3	3	(A委員) 医師の採用(特に必要な診療科)についてはもう一步である。看護師の充足については敬意を表したいが、今後、市民病院の方針に合致する人材を使用するなど努力されたい。 (B委員) 医師以外の医療職、特に看護職の確保に対する努力に敬意を表したい。医師の確保は明石市民病院の永遠の命題であるが、魅力ある病院として研修医の確保と後期研修後の就職病院としてまたこれからも情報を迅速に集め医師確保を続けていただきたい。 (D委員) 多様な取り組みが行われており、年度計画を上回っていると評価した。医師の確保についてもいろいろな取り組みにより、2020年度の採用につながっていると思われるため、評価した。看護職、看護補助者への対応、医療技術職も複数採用できており、医療人材を豊かにしようと取り組んでいる点も評価した。 (E委員) 医療職の確保について事実上返還不要となる資金貸与について更なる拡充も必要と思われるが、公共性の高い施策なので市との連携により病院の負担を減じる措置も検討すべきではないか。 (明石市のための重要なインフラである。)	3	4	3	4	3
	(2) 魅力ある人材育成システム	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 看護師はじめ各職種のレベルアップのための教育が積極的に行われており、また大学や病院団体のマネジメント研修に派遣していることは評価できる。今後、明石市民病院の方向性、例えば「高度な総合的医療の提供」のためにはどのような教育が必要なのかを探索いただきたい。 (B委員) 研修プログラムの充実、コードブルー訓練その他の院内研修システムによる階層別研修など人材育成に努めている。 (D委員) いろいろな取り組みを実施しており評価できる。年度計画どおりなのか上回っているのかの判断が難しく、法人の自己評価どおりとした。 (E委員) 人事評価システムとの一体運用により一層効果的な人材育成システムとなるので更なる人材育成を目指すべきである。	3	3	3	3	3

内 容 項 目	2019事業年度								参 考							
	法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間			
		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時		
関 する 目 標 を 達 成 す る た め と る べき 措 置	2 経営管理機能の充実	—	—	—	—	—	—	—		B	B	B	B	B		
	(1) 役員の責務	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)他の公立病院と比較して、単に診療報酬上有利になるような医療機能の向上だけではない「本質的な経営」を考えておられると思う。4点にしたいところであるが成果に時間がかかることから今しばらくの徹底を期待したい。 (B委員)理事会、経営戦略会議の頻回開催、理事の自己研鑽など年度計画に沿って実施している。 (D委員)記述内容から年度計画どおりと評価した。 (E委員)必要な会議体は整備されているため今後の運用に期待したい。	3	3	3	3	3	
	(2) 管理運営体制の充実	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)他の公立病院と比較して積極的に運営管理体制の構築が試みられているが、本項目は多方面からの取り組みが必要なので引き続き努力を継続いただきたい。BSGと人事考課を完全に一体化できないのは止むを得ないが、「切り離す」訳ではないことを理解いただきたい。 (B委員)BSGと人事評価を分離することによりそれぞれの部署でモチベーションが上がることを期待する。 (D委員)記述内容から年度計画どおりと評価した。 (E委員)財務情報に偏りがちな管理運営体制のみならずBSGを活用した非財務情報も重視することにより体制強化を計ることが重要である。そのための取組はおこなわれているものと評価する。	3	3	3	3	3	第2期:管理運営体制の強化
	(3) 事務職の育成の推進	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)管理職含めたマネジメント職のプロパー化は完成した。4点にしたいところだが残念ながら彼らを組み合わせる成果を出すところまでは至っていない。この点での努力を期待したい。 (B委員)職員の専門性の向上に計画通り取り組んでいる。 (D委員)記述内容から年度計画どおりと評価した。 (E委員)管理系職員から理事を選任出来るよう更に一層の取組を求めたい。	3	3	3	3	3	第2期:事務職の役割の明確化と専門性の向上

内 容 項 目		2019事業年度							参 考								
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間			
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時		
第2 業務 運営 の 改善 及び 効率 化に 関す る目 標を 達成 する ため とる べき 措置	3 構造改革の推進	—	—	—	—	—	—	—			B	A	B	A	B		
	(1) 組織風土の改革	3	4	3	3	3	3	3	3	(A委員)あくまで一般的な公立病院と比較してであるが、当院独自の方向性に向けた意識改革が進みつつあり積極性も上がっている。まだまだではあるにしても自信を持って良いのではないかと。 (D委員)帰属意識の向上の取り組み内容が不明であるが、他は年度計画どおりとして評価した。 (E委員)BSCを活用したQC活動を行うなど既に取り組んでいるので引き続き成果を目指して頂きたい。	3	4	3	4	3		
	(2) 人事評価制度の運用	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)BSCと人事評価はリンクできれば理想だがなかなか難しいところも多い。かといって、うまく行かなければ切り離せば良いというものでもない。もし切り離すなら「(BSCとは違う)どのような考え方で評価するのか」の明確化が必要。 (B委員)職員のモチベーションが上がる評価制度となるよう期待する。 (D委員)モチベーション向上のために制度を見直しており、年度計画どおりと評価した。 (E委員)総給与費をコントロールする中でメリハリのある人事評価制度を通じて各職員のモチベーションを向上させることが必要であり、一般企業においても最も重視されている項目である。 引き続き取組を継続されたい。	3	3	3	3	3	第2期:人事給与制度の整備	
	(3) 労働生産性の向上	3	3	3	4	4	3	3	3	(A委員)この項目は細かな効率性の向上だけではなく、最終的な人件費比率の低減で判断するべき(医療機能と品質も確保した上ではあるが)。「損益計算書の年次推移」(経営企画課)によれば、一旦H27~H29年度に58~60%に下がったが、H30以降は62%代に悪化している。 なお、数年前に給与規定の改定をしたはずであるが、ある程度年限が経過したこの時期にその効果を測定するべき。 (B委員)病棟クラークの配置により医師、看護師の負担軽減がなされている。働き方改革も少数精鋭の市民病院では困難な面が多いが改善への努力をなお期待する。 (D委員)医師の業務負担の軽減だけでなく、生産性の向上にもつなげていること、看護師の負担軽減にも取り組んでいること、ピッキングマシンの導入、職員の業務負担軽減など行っており、年度計画を上回っていると評価した。 (E委員)利益を確保することが労働生産性の向上には必要なので様々な取組を通じ更なる成果を期待したい。	4	4	3	4	4	第2期:購買・契約制度の改変	

内 容 項 目		2019事業年度							参 考						
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間	
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	1 業績管理の徹底	—	—	—	—	—	—	—			B	A	B	A	B
	(1) 診療実績の向上による収入の確保	3	3	3	4	3	3	3	3	(A委員)手術の増加や重症度の向上、在院日数の短縮などによる増収努力には敬意を払うが、残る経営的な課題はただ一つ、病床稼働率の向上である。 (B委員)入院診療単価、外来診療単価も目標値を上回っている。また地域包括ケア病棟、回復切りハ病棟が好調に稼働している。 (D委員)目標と実績値に大きな開きがないことから、年度計画どおりと評価した。 (E委員)外来よりも入院に注力したことにより入院収益は昨年度よりも大幅に増加した。ただ、目標には届かず伸びしろはまだあると思われる。2019年度目標の病床稼働率81.0%を達成する施策を強化すべきである。貸倒損失の計上が収益や債権残高に対して大きいと判断出来る。事業の性質上難しいのかもしれないが利益に直結するものなので債権管理体制を強化されたい。	3	4	3	4	4
	(2) 支出管理などによる経費削減	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)材料費および経費の水準はそれほど高くないが、こちらも数年前に削減したはず。その効果を検証しながらさらに徹底する必要がある。 (D委員)目標と実績値に大きな開きがないことから、年度計画どおりと評価した。 (E委員)材料費や経費については管理可能なものは十分な措置が取られると認められる。他方、人件費については人事評価制度の運用を通じた管理が必要と判断する。	4	3	3	3	3
	(3) 原価計算の活用	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員)業務実績報告書の実施状況(判断理由)を見ると恐縮ながらさらに突っ込んだ分析が必要、人件費や諸経費など。 (D委員)記述内容から年度計画どおりと評価した。 (E委員)管理会計をどう経営判断に役立てていくのか今後の運用に期待したい。					

内 容 項 目		2019事業年度							参 考							
		法人 自己 評価	評価委員会評価					委員 平均	評価 結果	評価に係るコメント (判断理由、評価の意見 等)	年度評価結果			第2期中期目標期間		
			A委員	B委員	C委員	D委員	E委員				H28 (2016年度)	H29 (2017年度)	H30 (2018年度)	終了時 見込	終了時	
2 安定した経営基盤の確立		—	—	—	—	—	—	—		B	B	B	B	B		
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	(1) 収支の改善	3	3	3	4	4	3	4	3	(A委員) このところ安定的に経常利益を計上していることは評価できる。ただ、8億以上の運営費負担金に加わったことにより、多少減額されても経営が成り立つように、また近将来には病院建替も想定されることから一定の原資が負担できるよう、さらなる収支改善を期待したい。 (B委員) 5年連続の黒字決算、資金増加を評価する。 (C委員) 病床稼働率と入院診療単価(急性期)の増加から、また麻酔科医の増加から全身麻酔手術数の増加が生じており、結果として医業収益が伸びている。これによって医師数の増加による人件費をも上回る増収となり連続した黒字運営が得られている。 (D委員) 黒字決算で資金も年度末は年度当初より上回っていることから、年度計画を上回っていると評価した。 (E委員) 人件費増(計画的投資によるものと判断できる)や控除対象外消費税の増加及び運営費負担金1.24億円の減少を吸収し、最終利益1.32億円を確保出来ていることは評価出来る。	3	4	3	4	4	第2期:経常収支の改善
	(2) 計画的な投資	3	3	3	3	3	3	3	3	(A委員) 病院は(人材などソフト面とともに)ハードそのものも商品であることから、引き続き市と建て替え計画について協議を続けるとともに、実現が可能なようにさらなる収支改善に向けての努力を継続していただきたい。 (B委員) 年度計画では今後の施設のありかた検討懇話会の設置が計画されているが、コロナ対策に手が取られて後ろ向きにならないように進めてもらいたい。 (D委員) 記述内容から年度計画どおりと評価した。 (E委員) 医療機器等の投資計画については成果が出ているものの、建替を含めた投資計画の策定については進捗はしていない。コロナ渦において市との懇話会立ち上げも出来なかった要因があるものの早急に議論を開始する必要がある。	3	3	3	3	3	第2期:資金収支の改善と計画的な投資